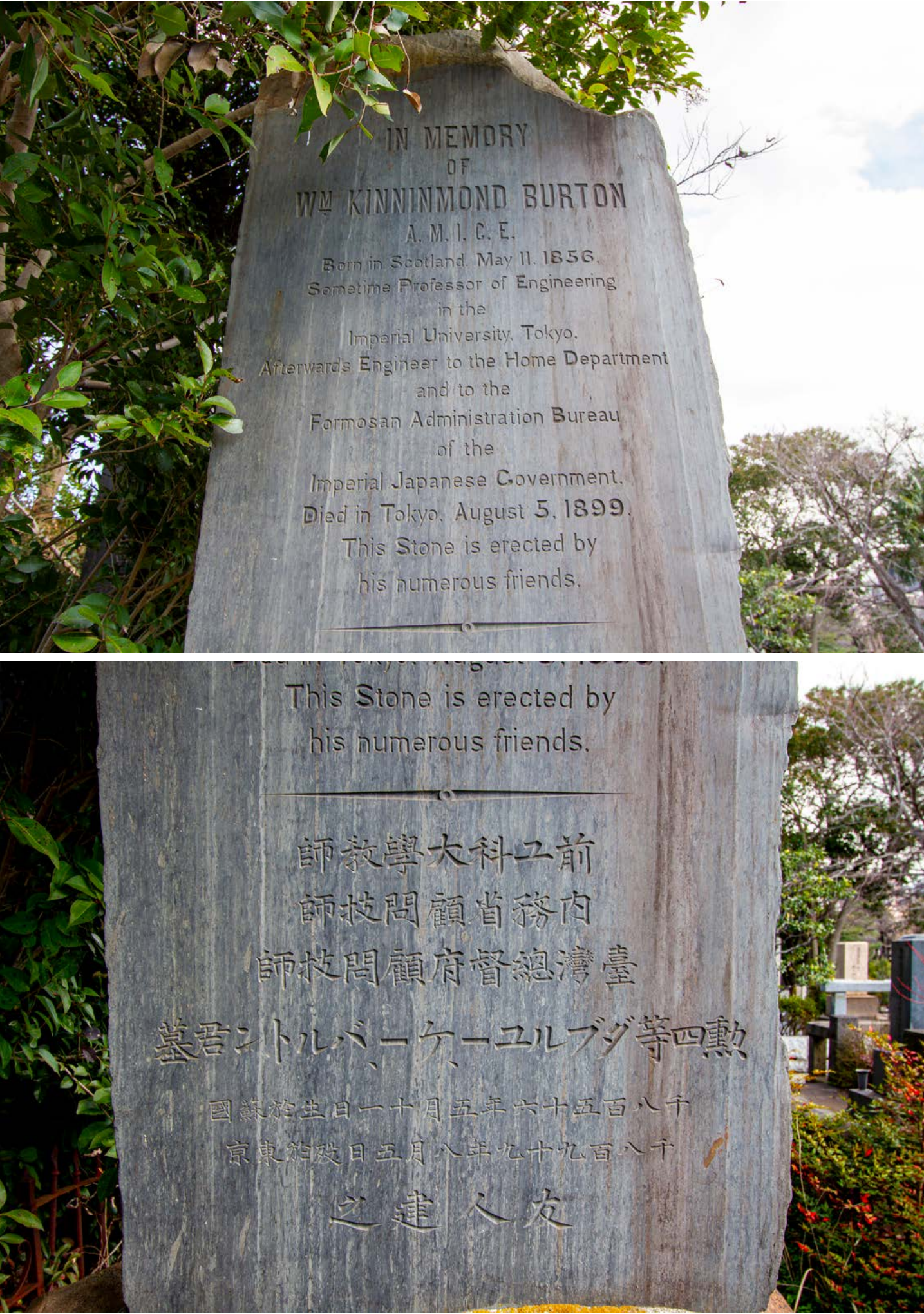
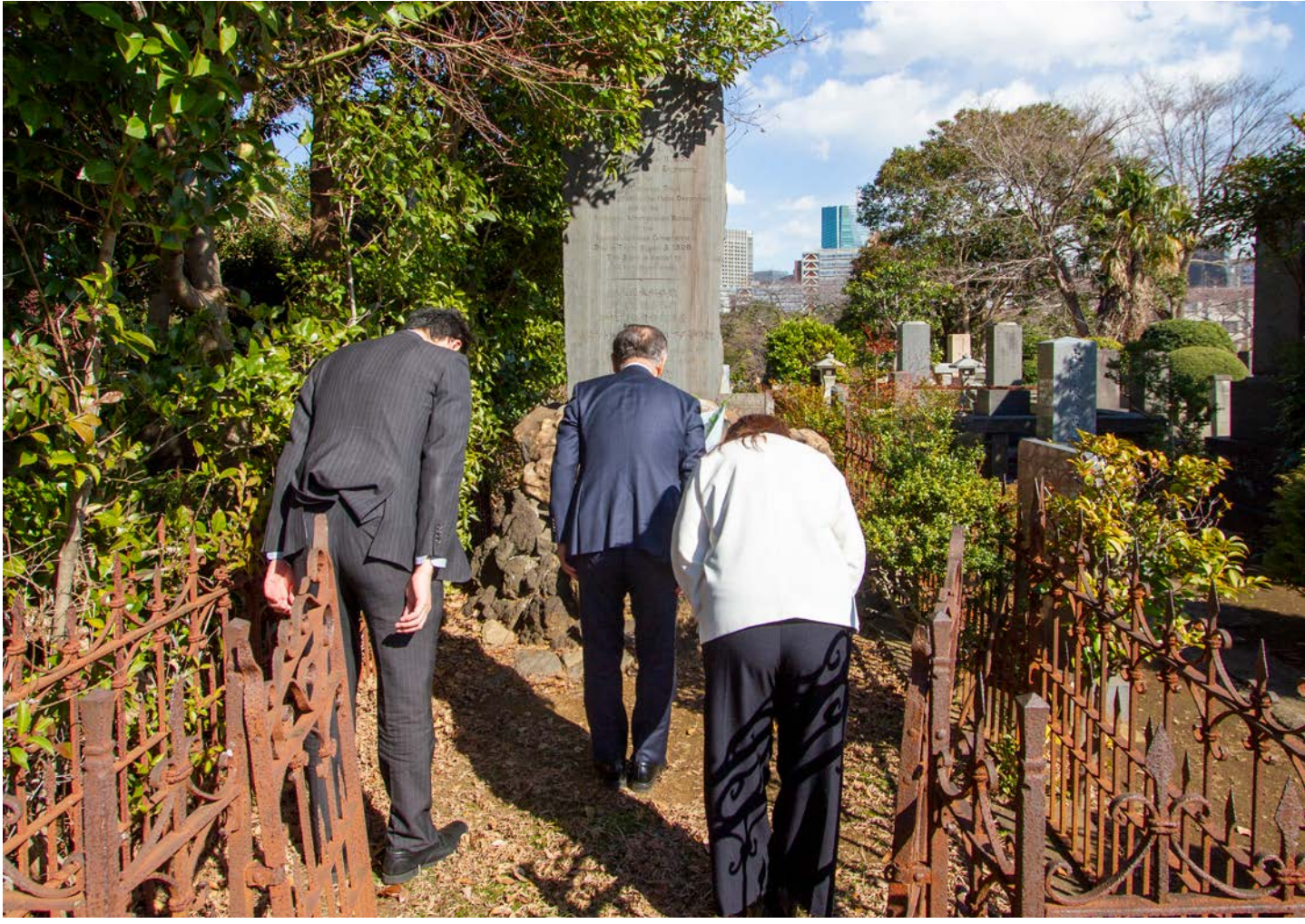




台湾・日本の上下水道の父
ウィリアム・K・バルトン墓参

2020.2.18
東京 青山霊園







世界・日本の縁結び 対立から共生の文化を目指して

イマジン・ピース・タワーから生まれた 光の柱プロジェクト

沖縄

糸満市
沖縄平和祈念公園

島根

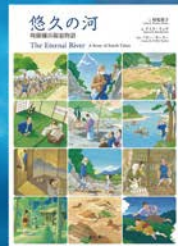
松江市
人間自然科学研究所

鳥取

湯梨浜町
中国庭園 燕趙園



日本・台湾の水道の父
ウィリアム・K・バルトン



世界の治水聖人
周 藤彌兵衛翁

敬宮愛子様 命名の出典は孟子



170名の全国世界の水の偉人顕彰祭を尖道湖岸・袖師地蔵前で開催



孔子像 日本第一の治水像 西宮孝八仙八像 漢詩像

人間自然科学研究所 <https://www.hns.gr.jp/> 東京・大阪・仙台・ソウル・バンコク

クラウド総合水管理システムのパイオニア
やくも水神 特許リアルタイム表示
スマートフォン・タブレット管理
2000年発売以来
470自治体13,000施設
2020年1月現在



ドコモデータセンター・Rubyで構築
民公連携とクロスオーバー管理で新産業創出



小松電機産業株式会社 <https://www.komatsuelec.co.jp> 東京・大阪・仙台・ソウル・バンコク

シートシャッターのパイオニア 空間価値を創造
happy gate 門番
1980年発売以来
180,000台
2020年1月現在



高防虫 マジックオフロン
誘引阻止率80%



小松電機産業株式会社 <https://www.komatsuelec.co.jp> 東京・大阪・仙台・ソウル・バンコク

世界・日本の縁結び 対立から共生の文化を目指して

イマジン・ピース・タワーから生まれた 光の柱プロジェクト

沖縄

糸満市
沖縄平和祈念公園

島根

松江市
人間自然科学研究所

鳥取

湯梨浜町
中国庭園 燕趙園



日本・台湾の水道の父
ウィリアム・K・バルトン



世界の治水聖人
周 藤彌兵衛翁

敬宮愛子様 命名の出典は孟子



170名の全国世界の水の偉人顕彰祭を尖道湖岸・袖師地蔵前で開催



孔子像 日本第一の治水像 西宮孝八仙八像 漢詩像

クラウド総合水管理システムのパイオニア
やくも水神 特許リアルタイム表示
スマートフォン・タブレット管理
2000年発売以来
470自治体13,000施設
2020年1月現在

シートシャッターのパイオニア 空間価値を創造
happy gate 門番
1980年発売以来
180,000台
2020年1月現在

ドコモデータセンター・Rubyで構築
民公連携とクロスオーバー管理で新産業創出



小松電機産業株式会社 <https://www.komatsuelec.co.jp> 東京・大阪・仙台・ソウル・バンコク

シートシャッターのパイオニア 空間価値を創造
happy gate 門番
1980年発売以来
180,000台
2020年1月現在

高防虫 マジックオフロン
誘引阻止率80%



小松電機産業株式会社 <https://www.komatsuelec.co.jp> 東京・大阪・仙台・ソウル・バンコク

出雲縁結び空港 到着エスカレーター上部



松江駅 改札口前



悠・遊・友、そして意宇
“志人道”を生きる



ゆる科学通信

Vol.7

SEP.

9月

発行：八雲志人館

〒690-2102

鳥根県松江市八雲町東岩坂3442-9

電話・FAX 0852-54-1023

E-mail/shijinkan@bell.ocn.ne.jp

2015年9月11日発行

一村一志

「夢の芽生える文化」創造のフラットホーム
「八雲志人館」は、将来に向けて持続可能な
地域を創出することをめざして活動します。

すつと、ふすが開いた。白地の浴衣(ゆかた)に、へこ帯をきりつと締めた長身の男が現れた。一座、息をのみ、ざわめきが消えた。口ひげをたくわえた細面(ほそおもて)の肌が浴衣地より白い。やや寸足らずの裾(すそ)を合わせする仕草をして、男は着座した。「日本流の席では、この恰好がよほど気楽でいいです」と、つかえがちながらも、江戸井の薫りのする日本語で言った。途端に一同、どっと沸き、杯をもって男を囲み、酒宴が始まった。――1895年(明治28年)7月23日、松江市中央湖畔の料亭「臨水亭」で一駒を、当時の「山陰新聞」の記事をもとに、小説風に描いてみました。浴衣姿の男の名はウィリアム・キンモンド・バルトン。今日、「日本の衛生工学・上下水道の父」と称えられる人物です。

水の偉人② ウィリアム・K・バルトン



バルトン銅像

イラスト：寺戸良樹

バルトンは1856年、スコットランドのエディンバラ生まれ。ロンドンの衛生保護協会の上席主任技師をしていた、1887年(明治20年)、日本政府の招きで来日します。いわゆる「お雇い外国人」の技師です。ラファディオ・ハーン(小泉八雲)が、同じ「お雇い外国人」として松江市に赴任したのが1890年(明治23年)ですので、ハーンより3年ほど早く日本に来たこととなります。バルトンは、内務省衛生局の顧問技師として東京市上下水道取調主任を務める傍ら、帝国工科大学(現・東京大学工学部)で衛生工学の教鞭を執ります。バルトンの講義の人気は高く、のちに日本の衛生工学や上下水道を支える人材を輩出しています。ただ、「いつも酒を呑んでいて、酔ったまま講義をしておられたようです」といった思い出も語り継がれており、浴衣姿で酒宴に臨むことといい、洒落っ気、人間味にあふれた人物だったようです。

バルトンが松江に来たのは、先に記したように1895年(明治28年)のことです。当時の松江も伝染病に苦しんでいました。1882年(明治15年)には359人が罹病、死者251人、1886年(明治19年)には557人が罹病、死者386人と、コレラが猖獗(しょうさつ)しようけつを極めていました。水が問題だったのです。1891年(明治24年)、1892年(明治25年)の『松江市水道史』の記録より引きまします。「日常、市民の飲料に供する井戸の多くは、概ね雨水、または汚水の地中に滲透したるものなり。加うるに下水の設備不全にして排泄十分ならず。一朝、大雨に際会するときは溢水、街路にあふれるを常とす。故に飲料に供せられつつある井戸水は有害分子を含有するは勿論、年月を経るにしたがつて、ついに地層は汚水浸潤のため水質は不良に帰するものなり」。「市中を貫流する川は、ことごとく緩流にして常に汚濁を帯び、夏季は有機物の腐敗と湖水の混入により水質は一層、劣悪となり沿岸区域に住するものは、この河水によって飲食物およびその器具を洗浄し、甚だしきは洗面、沐浴、ウガイして怪しまざる慣例あるは、まことに寒心に堪えず」。

7月23日に松江入りしたバルトンは、松江市から事前調査のレクチャーを受けたのち、当時の忌部村左水(さみずみ)、熊野村大内谷・深山谷、朝酌村目無(めなし)等の探検調査を行い、8月2日に帰京します。帰京後、松江市に再調査を依頼し、1899年(明治32年)、内務大臣に「サミズ泉を最上の水源」として報告しています。当時の松江市の人口はおおよそ3万5000人。市の財政規模は3万圓台でした。これに対して、バルトンの水道事業の工費見積は15万円。折から、日清、日露の両戦争で財政が圧迫されたため、バルトンが描いた計画は棚上げされることになってしまいました。しかし、その後、歩兵63連隊の古志原設置、山陰線松江駅開業(1908年・明治41年)などによる人口増が見込まれるようになったため、松江市は東大

教授・中島鋭治工学博士に、水道敷設の調査と設計を依頼しました。中島はバルトンの教え子です。中島はバルトンが主張したとおり、水源地を忌部村左水と定め、1914年(大正3年)着工、1918年(大正7年)3月完工、6月より給水が始まりました。バルトンの調査が基礎となった、松江市の近代水道が完成したのです。そして、中島の教え子で、松江出身の九州帝国大学教授・西田精の指導によって拡張されていきました。余談ながら、バルトンは実に多才な人物でした。建築技術・設計にも長け、エレベーターを備えた日本初の高層ビル「凌雲閣」(通称「浅草十二階」)。1923年・大正12年の関東大震災で崩壊)はバルトンの設計によるものです。また、写真家としての業績もあります。当時の乾板を發明したロンドンの写真技術者のひとりとして称えられています。来日してから写真家として活発に活動し、東京の風物や相撲、庶民の生活ぶりなどを撮影し、欧米に紹介しています。1888年(明治21年)の磐梯山噴火、1891年(明治24年)の濃尾地震など大災害に際しては、記録写真を撮影し、後世に残しています。さらに、1889年(明治22年)に結成された、日本初のカメラマンの同好会「日本写真会」の創立メンバーにもなっています。

日本での任期を終えたバルトンは、1896年(明治29年)、日本の植民地となったばかりの台湾に渡り、台北の上水計画を進めます。前回紹介した水の偉人・八田與一が台湾に渡る四半世紀ほど前のことです。しかし、炎暑の中の調査活動を重ねた末に、不運にも風土病にかかり、1899年(明治32年)8月5日、43歳で亡くなりました。バルトンの一番弟子といわれる浜野弥四郎は、台北の水道資源地にバルトンの銅像を建てました。その除幕式で「この世に生を享けた者で生命の悠久を願わない者はいない。どうすれば、そうなるか。『自己の天職を尽くして之を全うするもの』、直に生命の悠久を保持する所以なり」。バルトン先生は、まさにそういう人であった」と述べています。

「自己の天職を尽くして」とは、多くのスコットランド人が座右の銘とする言葉とのことでした。2006年(平成18年)、バルトン生誕150年、来松110周年を記念して、松江市の水がめ・千本ダム近くの忌部浄水場構内に顕彰碑が建てられました。ちなみに、古代において勾玉を洗ったと伝えられる、忌部左水で汲み上げられた水は、「松江古代水」として松江市上下水道局から売り出されています。(交易場修)

参考：「松江市水道の恩人 お雇い外国人技師ウィリアム・K・バルトン 岡崎秀紀・浴隆博

ウィリアム・K・バートン

EU 離脱で大きな変化が想定されるイギリスのスコットランド生まれの技術者・写真家。「W.K. パルトン」の表記のように、在日中はパルトンの呼称の方が一般的であった。

高尾浄水場の竣工式で、バートン（右）と当時の市長（左）

高尾浄水場の竣工式で、バートン（右）と当時の市長（左）

高尾浄水場の竣工式で、バートン（右）と当時の市長（左）

高尾浄水場の竣工式で、バートン（右）と当時の市長（左）

高尾浄水場の竣工式で、バートン（右）と当時の市長（左）

高尾浄水場の竣工式で、バートン（右）と当時の市長（左）

略歴

バートンは法律家で文筆家のジョン・ヒル・バートン (John Hill Burton) とカサリーン・イネスの夫妻のもとに生まれた。高校卒業後、エジンバラのブラウン・ブラザーズ社で水道技術工見習いとなり、1879 年、叔父のコスモ・イネスを頼りロンドンに移った。イネスは技術事務所を営む傍ら、衛生保護協会 (Sanitary Protection Association) 事務局長を務めており、バートンは、1881 年には衛生保護協会の主任技師となった。イネスは 1869 年から 3 年間、インド植民地公共事業局の技師を務めており、その間、明治政府の工部省測量司に配下の測量師 3 名をお雇いに推薦したことがあった。

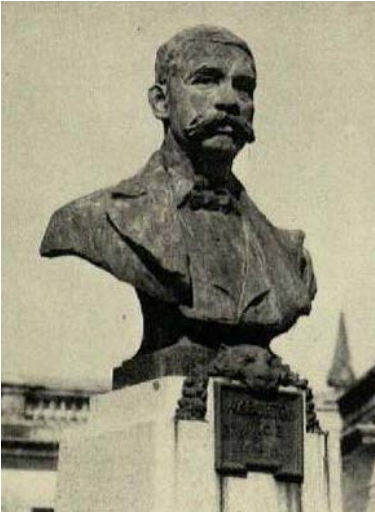
高尾浄水場の竣工式で、バートン（右）と当時の市長（左）

高尾浄水場 (写真奥) と日如山浄水場
大学教育は受けておらず、とくに目ぼしい実績もなかったが、**渡欧中の永井久一郎 (永井荷風の父) と知り合ったことで、彼の推薦を得て、当時コレラなどの流行病の対処に苦慮していた明治政府の内務省衛生局のお雇い外国人技師として1887 年 (明治 20 年) 来日**。衛生局のただ一人の顧問技師として東京市の上下水道取調主任に着任するとともに、帝国大学工科大学 (のちの東京大学工学部) で衛生工学の講座ももち (正式な教授ではなく特別講師的なもの)、浜野弥四郎など何人かの著名な上下水道技師を育てた。バートンの設計は、実地工事上の段階で大幅に変更せざるを得ないものではあったが、帝都上下水道の基本計画となり、東京、神戸、福岡、岡山などの上下水道の基本調査などを担当した。バートンが基本プランを作成した下関市高尾浄水場は瀧川釵二の設計により明治 39 年 (1906 年) に給水開始。以来、1 世紀以上使用され、平成 10 年 (1998 年) に着水井 (ちゃくすいせい)、濾過池 (ろかち)、濾過池付設調節井、配水地 (はいすいち) など一連の施設が登録有形文化財に登録された。下関市が頒布している災害備蓄用飲料水のボトルにはバートンの顔が印刷されている。凌雲閣の基本設計者でもある。

バートンは母方の祖父が地元では名の知られた写真愛好家であったことから、カメラや写真に詳しくなった。来日前には臭化ゼラチン乾板の原理に関する著書や論文で著名であり、当時の乾板の発明を行ったロンドンの写真技術者の一人として評価された。その後、日本で写真撮影に関する本も出版した。日本の写真家小川一真らと親しい関係を結び、小川や鹿島清兵衛らについての論説をイギリスの写真誌に寄稿した。バートンは小川や鹿島のほか、菊池大麓、ウィリアム・スタージス・ピゲロー、石川巖、小倉俟司、中島精一、江崎礼二らとともに、1889 年 (明治 22 年) 5 月に榎本武揚を会長として設立された日本寫眞會 (在留外国人や日本人富裕層のアマチュア写真家・職業写真師のための日本初の同好会) の創立メンバーとなっている。1888 年の磐梯山噴火、1891 年の濃尾地震という大災害に際しては、大学の依頼で被災地に赴き、惨状を撮影した。

高尾浄水場の竣工式で、バートン（右）と当時の市長（左）

バートンの実家だったエジンバラのクレイグハウス
1896 年、バートンは台湾総督府民政長官だった後藤新平の要請で教え子の浜野弥四郎とともに日清戦争の勝利によって日本の領土となった台湾に向かい、台湾の公衆衛生向上のための調査に当たった。台湾でよい水源地の発見に苦慮し、炎暑の中を調査中に風土病にかかり、1899 年 8 月 5 日に 43 歳で没した。1894 年に結婚した日本人妻と、別の女性との間に生まれた娘を伴って英国への帰国を準備していた目前であったため、帰国を果たせず、東京の青山霊園に葬られている。教え子の浜野は師の訃報で悲しみに暮れながらも、台湾での事業を継続。基隆水道貯水池 (現・基隆市暖暖区の西勢水庫 (中国語版)) や台北水道 (現・台北市中正区)、台南水道 (現・台南市山上区) などを次々と完成させていった。1919 年、浜野は健康状態の悪化を理由に総督府の職務を辞し帰国することを決意すると、恩師バートンの功績を世に留めるべくその銅像を建てようと募金に奔走し、台湾総督明石元二郎にも台北水道水源地内の用地確保を申請している。3 月 30 日に無事**バートン像の除幕式を開くことができたが、戦時中に資材供出令により撤去されている**。2006 年には、バートン生誕 150 周年を記念して、バートンの実家であり、現在はエジンバラ・ネイピア大学に寄付されているクレイグ・ハウス内に記念プレートが遺族によって設置された。



浜野弥四郎の尽力で台湾・台北水道水源地に建立されたバートン像 (現存せず)

小泉 八雲

ギリシャで生まれ、EU 離脱で大きな変化が想定されるアイルランド (アイルランド独立戦争後、1921 年英愛条約締結、1922 年イギリスから独立) で育った新聞記者 (探訪記者)、紀行文作家、随筆家、小説家、日本研究家、日本民俗学者。出生名はパトリック・ラフカディオ・ハーン。ラフカディオが一般的にファーストネームとして知られているが、実際はミドルネームである。アイルランドの守護聖人・聖パトリックにちなんだファーストネームは、ハーン自身キリスト教の教義に懐疑的であったため、この名をあえて使用しなかったといわれる。ファミリーネームは来日当初「ヘルン」とも呼ばれていたが、これは松江の島根県尋常中学校への赴任を命ずる辞令に、「Hearn」を「ヘルン」と表記したのが広まり、当人もそのように呼ばれることを非常に気に入っていたことから定着したもの。ただ、妻の節子には「ハーン」と読むことを教えたことがある。

概要

1896 年 (明治 29 年) に日本国籍を取得して「小泉八雲」と名乗る。「八雲」は、一時期島根県の松江市に在住していたことから、その旧国名 (令制国) である出雲国にかかる枕詞の「八雲立つ」に因むとされる。日本の怪談話を英語でまとめた『怪談』を出版した。母がキシラ島生まれのギリシャ人で、アラブの血も混じっていたらしく、のちに八雲自身、家族や友人に向かって「自分には半分東洋人の血が流れているから、日本の文化、芸術、伝統、風俗習慣などに接してもこれを肌で感じ取ることができる」と自慢していた。父母を通じて、地球上の東西および南北の血が自分の中に流れているという自覚が、八雲の生涯と文学を特徴づけている。異国情緒を求める時代背景もあったが、八雲は生涯を通じてアイルランドからフランス、アメリカ合衆国、西インド諸島、日本と浮草のように放浪を続けた。かつ、いかなる土地にあっても人間は根底において同一であることを疑わなかった。シンシナティでは州法を犯してまで混血黒人と結婚しようとし、のちに小泉セツと家庭を持つに際しても、何ら抵抗を感じなかった。2016 年 11 月、愛知学院大学の教授によって 1896 年 (明治 29 年) 当時の英国領事の書簡を元にした研究論文が発表され、小泉八雲がイギリスと日本の二重国籍だった可能性が高いことが示唆されている。

経歴

1850 年、当時はイギリスの保護領であったレフカダ島 (1864 年にギリシャに編入) にて、イギリス軍医であったアイルランド人の父チャールス・ブッシュ・ハーンと、レフカダ島と同じイオニア諸島にあるキシラ島出身のギリシャ人の母ローザ・カシマティのもとに出生。生地レフカダ島からラフカディオというミドルネームが付いた。父はアイルランド出身でプロテスタント・アングロ=アイリッシュである。イギリス軍の軍医少佐としてレフカダ島の町リュカディアに駐在中、キシラ島の裕福なギリシャ人名士の娘であるローザ・カシマティと結婚した。カシマティはアラブの血が混じっているとも伝えられる。ラフカディオは 3 人男子の次男で、長男は夭折し、弟ジェイムズは 1854 年に生まれ、のちにアメリカ合衆国で農業を営んだ。1851 年、父の西インド転属のため、この年末より母と通訳代わりの女中に伴われ、父の実家へ向かうべく出立。途中パリを経て 1852 年 8 月、両親とともに父の家があるダブリンに到着。移住し、幼少時代を同地で過ごす。父が西インドに赴任中の 1854 年、精神を病んだ母がギリシアへ帰国し、間もなく離婚が成立。以後、ハーンは両親にはほとんど会うことなく、父方の大叔母サラ・ブレナン (家はレインスター・スクェアー、アッパー・レッスン・ストリート) に厳格なカトリック文化の中で育てられた。この経験が原因で、少年時代のハーンはキリスト教嫌いになり、ケルト原教のドルイド教に傾倒するようになった。フランスやイギリスのダラム大学の教育を受けた後、1869 年に渡米。得意のフランス語を活かし、20 代前半からジャーナリストとして頭角を顕し始め、文芸評論から事件報道まで広範な著述で好評を博す。

1890 年 (明治 23 年)、アメリカ合衆国の出版社の通信員として来日。

来日後に契約を破棄し、日本で英語教師として教鞭を執るようになり、翌年結婚。

松江・熊本・神戸・東京と居を移しながら日本の英語教育の最先端で尽力し、欧米に日本文化を紹介する著書を数多く遺した。日本では『雨月物語』『今昔物語』などに題材を採った再話文学で知られる。私生活では三男一女をもうけ、長男にはアメリカ合衆国で教育を受けさせたいと考え自ら熱心に英語を教え、当時、小石川区茗荷谷に住むイサム・ノグチの母レオニー・ギルモアの英語の個人教授を受けさせた。

1904 年 (明治 37 年) に狭心症で死去。

満 54 歳没。彼が松江時代に居住していた住居は、1940 年 (昭和 15 年) に国の史跡に指定されている。



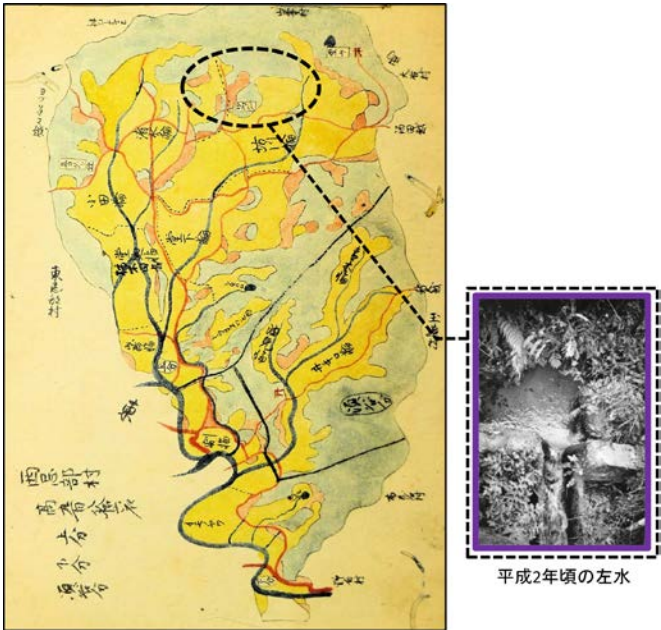
島根県松江市の小泉八雲旧居前に建立された小泉八雲像

小泉八雲記念館



住所：島根県松江市奥谷町 322
小泉凡（小泉八雲記念館館長、小泉八雲曾孫）
http://www.hearn-museum-matsue.jp/





源泉のサミズ（左水・清水）

絵図は、幕末（1860 年頃）の西忌部村、写真は平成 2 年の左水（源泉）付近である。バルトンの報告書では、サミズ（清水・左水）は「清水、無色透明、臭なし、硬度 1.28、品位は良水」と報告している。 意宇郡村絵図（西忌部村）明治大学図書館蔵（蘆田文庫）



バルトンの講演会参加者

1895 年（明治 28 年）7 月 29 日松江市役所にて私立衛生会島根支会総集会の講演会開催。当日、市長や役員などと記念撮影。前列左より福岡市長、関屋技師、バルトン（前列中央）、高橋技師、岡崎会長、田野俊貞、山崎 幹など。夜は約 60 名参加による望湖楼にて懇親会。夜 10 時半に終了。（写真提供：株式会社城見エステート 代表取締役 田野俊平）



「バルトン一行をもてなす」 山陰新聞より

当市の水道敷設の調査設計を委託したバルトン氏一行をもてなすため、市の有志は一昨日の夜、臨水亭で宴を開いた。集まったのは市参事会員市会議員の過半、市書記その他、岡崎運兵衛、森脇甚右衛門、高城権八、岡本金太郎、山崎幹、田野俊貞などの三十名余りであった。・・・ 中略 ・・・バルトン氏はスコットランド人で年齢は今年四十、日本に雇われて来たのは去る明治二十年、日本語を多少理解することができるようだ。と新聞にある。



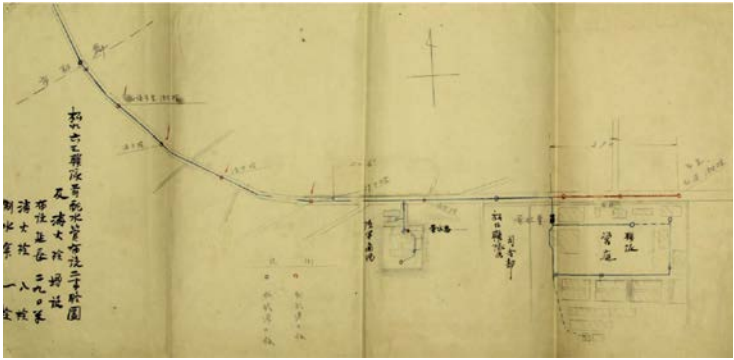
歩兵 63 連隊松江の新兵営に入る

1907 年（明治 40 年）10 月 16 日
水道敷設の実現には、歩兵 63 連隊の誘致計画も大きく影響している。（今岡額縁店蔵）



「松江市衛生事項並びに右改良方法に関する復命書」

松江市における上水道敷設を計画するため、市は内務省に専門技師の派遣を要請した。 1895 年（明治 28 年）7 月 23 日、同省御雇工人 W・K・バルトンが同省土木監督署技師・高橋辰次郎とともに来松。 意宇郡各地に加えて目無水の調査も行った。 調査は、足かけ 3 年目の明治 31 年 4 月にすべてを終え、その結果を翌 32 年「松江市衛生事項並びに右改良方法に関する復命書」にまとめ、内務大臣に提出している。 その中の「松江市高圧給水工事に關する設計」の項で、バルトンらは「サミズ泉を以て最上の水源地に指定せり」と記している。 サミズ泉：現 西忌部町左水



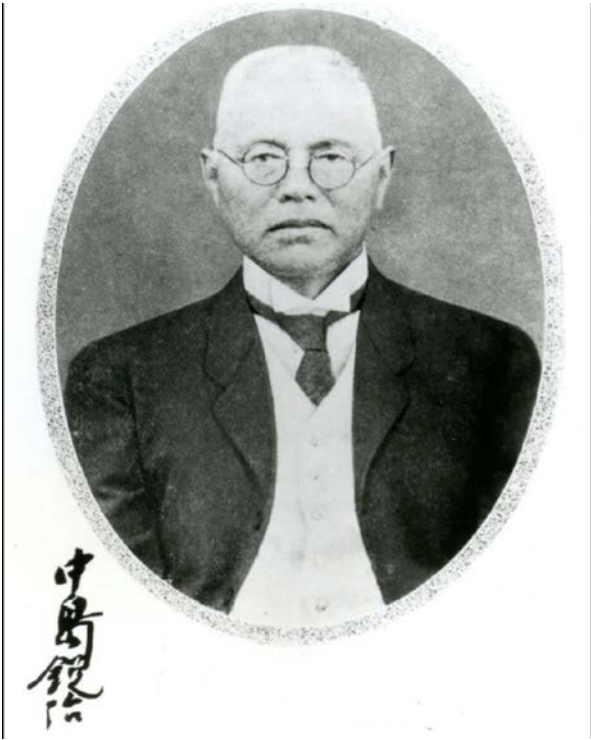
連隊前配水管敷設工事略図

松江市古志原村の連隊に向かって290メートルの配管を行なっている。配管は、陸軍病院、連隊区司令部、連隊営舎に通じている。図面には、消火栓8栓の位置も描かれている。



水源の事前調査を行なった関屋忠正技師

1893 年（明治 26 年）、斐伊川治水対策の技師として島根県に派遣中大洪水に遭遇。その後、治水対策に取り組んでいたバルトン来松前の 1895 年（明治 28 年）6 月、忌部村から熊野・岩坂村などの事前調査を行なった。バルトンに同行した高橋辰次郎技師とは同郷（岐阜県大垣市）でかつ帝国工科大学（東大）の同期。



バルトンの弟子で東大教授中島鋭治

1911 年（明治 44 年）、松江市は高橋助役、三島議員らを秋田・高崎・堺市に視察派遣。東大教授中島鋭治に詳細な調査を依頼。中島の基本計画は、バルトン案を支持して、水源は忌部とし床几山にろ過池・配水池を設け自然流下により市内に配水するとした。この案を受けて、1914 年（大正 3 年）11 月より工事に着手した。

第9回 床凡山の水道施設と外灯

旧松江市内は良質の飲料水に恵まれず、多年水飢饉や伝染病等に市民生活は脅かされてきました。近隣から水売りが来るものの、それを買って飲む習慣があるのは生活にゆとりのある者だけで、松江市民にとって良質の水の安定供給は多年の夢でした。市民の飲み水はそれまで井戸、湖水、濠川の水を使用してきましたが、それらの大半は飲料用としては不衛生なものであり、各種の伝染病に悩まされてきました。

明治になり、松江市や島根県も上水道敷設に動き出すのですが、経済的事情、数回にわたる戦争などによって延びに延びてやっと1919年（大正8年）3月、市民への供給体制が整います。それまでの経緯をたどると、明治26年4月、市長に対し、水道敷設に関する建議書が提出されたものの、費用が多額に上りすぎるため一度は見送られます。

しかし、1895年（明治28年）になって新たに水源調査が始まり、松江市は内務省に対し専門技術者の派遣を要請し、W・K バルトン（*1）と同省土木監督署技師高橋辰次郎が派遣されてきました。

調査は明治31年4月に終了し、各候補地の中から西忌部の清水（サミズ）を最も適当としました。サミズは水質が良く、噴泉の地位が高く、水量も1日あたり12万立米と豊富なことから選ばれました。同時に報告書では市内の配水池として、松江城のある城山も候補に上げられていました。しかし、工事費の試算と用地取得費は莫大になり、加えて27年の日清戦争、37年の日露戦争により財政は逼迫し、水道敷設計画は頓挫します。

明治41年に陸軍歩兵第63連隊が配置され、同年の山陰鉄道の松江駅開業もあって、上水道敷設は急務と考えられ、松江市長は東京大学の中島鋭治に水源の再調査を委嘱しました。中島はバルトンの教え子でもあり、結果としてバルトンの主張通り忌部を水源とすることが最適という結果を得、それを受けて明治45年2月、敷設設計が開始されました。大正3年11月、工事全体の起工式が行われましたが、用地買収の遅れ、その後の戦争、そして大正5年冬の大雪などにより、数度の工事延期を余儀なくされ、やっと大正7年1月に主要部分の工事を完了し、大正7年6月正式に給水が開始されました。

さて、今回紹介するのはその島根県で初めての水道施設のうちの、床凡山に置かれた配水池です。もちろん堀尾親子がここから松江を眺め、亀田山を最終的に松江城の築城地として選定した場所であることは松江市民なら誰でも知っていることです。サミズから引いた水を忌部の浄水場で濾過し、それをポンプで床凡山の上まで送り、そこから松江市内に配水する仕組みです。大正3年から工事にかかり大正6年（1917）に完了しています。現在この施設は水道施設として使われなくなっていますが、床凡山配水池公園として市民に開放されています。一部を除き、かなり建設当初の姿が残されています。配水池そのものもほぼ当時のままですし、計量器室や入り口の門などもそうです。ポンプ室や吏員宿舎は昭和の早い時期に建て替えられたものが今は存在していますが、その入口に今も立っている2本の外灯は、当時のものそのままではないかと思われていました。

今回の調査でその外灯に思いがけないものが見つかりました。写真を見てください。上の方に木の葉を模したようなレリーフが二つ付いています。あることがきっかけでその外灯を詳細に調査してみると、なんとそのレリーフの上側に文字が見えます。下から見上げるばかりでしたので上に文字が書いてあるなど思いもよらないことでした。その文字は浮彫のように膨れています。そしてそこに書いてあるものは全く想像もしなかったことでした。すべてが解明できたわけではありませんが、その中の一つにはっきりと明治24年3月と、原、正、という文字が読めます。残っている3枚のレリーフにはすべて異なった文言が書いてありました。明治24年、なんとということでしょう。

その時期にこの床凡山配水池があったはずがありません。それどころか、松江に最初は電気が引かれたのは明治28年です。ちなみに城山、椿谷公園の一角に石炭火力発電所が建設されたのが始めです。さてどう考えたらいいのでしょうか。

電気がある前にあった外灯。ひょっとしてガス燈だったのか（日本最初の西洋式ガス灯は明治4年、大阪）。松江初のガス灯も明治7年3月点火とあります（1941年の松江市史より）。もう一つ明治24年3月というのは、奇しくも第15代松江大橋の開通した時。15代大橋は、現在の橋の二つ前の橋で、評判の悪かった鉄骨のワーレントラス橋。ひょっとしてそこに使われていたのかとも思い、古写真を眺めまわしてもそんな形の外灯は見えない。とするともう一つ考えられるのは、どこか別な場所で使われていたものを譲り受けて設置したものか。いずれにしる頂部（ランプがあった部分）についてはかなり改良されて今の形になっているものと思われます。それは明治15年、銀座で初点灯された外灯は、しばらくはガラスに覆われた箱の中で電球が光っていたからです。でないと風や雨の影響を受けやすかったのです。

いずれにしる分からないことばかりですので、これから書いてあることを解読し、外灯の形も調査していかなければなりません。

（平成23年6月1日 松江城部会 足立正智）



バルトン生誕150年・来松110周年記念碑

松江市の水道の創設期に貢献した外国人技術者 W.K. バルトンが生誕150年、来松110周年を迎えた2006年に建立された記念碑である。

バルトン氏が来松したのは、1895年（明治28年）7月23日、水源を求めて、当時の島根郡朝酌村や、意宇郡忌部村・熊野村を調査し、忌部村のサミズが水源に最適であるとの報告を作成した。松江の近代水道は、その後バルトン氏の教え子である東京帝国大学教授中島鋭治氏の指導を受け、1918年（大正7年）6月正式に給水を開始、さらに中島氏の教え子である、松江出身の九州帝国大学教授 西田精氏の指導を受けて拡張を遂げていった。

この記念碑は、2006年（平成18年）がバルトン生誕150年並びに、来松110周年にあたることから、松江市水道発祥の基盤を築き、松江市水道の恩人である、バルトン氏の功績を称えるべく記念碑を建立されたもので、第48回水道週間の6月3日に除幕式を行った。

場 所：忌部浄水場構内

建立日：2006年（平成18年）6月3日

<参考書籍>



バルトン先生、明治の日本を駆ける！ 近代化に献身したスコットランド人の物語

はるかスコットランドから日本に渡り、明治期の上下水道整備に尽力した男バルトン。多様な活躍に彩られた彼の生涯・事蹟を辿る評伝。

稲場 紀久雄 著 出版年月 2016/10 出版社 平凡社

稲場 紀久雄氏とのご縁

著者の稲場紀久雄氏と小松社長との付き合いは、水道産業新聞 西原社長のご縁で、2016年 稲場氏御本 出版後に丁寧なお手紙と共に謹呈本が届いたことが始まり。その後京都の稲場氏ご自宅近くで、ご夫妻がイギリスでバルトンについて研究をされバルトンの親族をはじめ様々な方と縁がつながるなど、これまでの研究過程をお聞きし、その後も面談や電話でお互いにバルトンにまつわる研究結果や現況報告等を行う。

この度、バルトンの銅像を製作・設置するにあたり、新たな次元の協力・関係性となる。

浜野 弥四郎

はまの やしろう

（1869年10月13日 - 1932年12月30日）

千葉県成田市出身の衛生工学、土木工学者。日本統治時代の台湾で台湾総督府土木部の技師として多くの上下水道インフラを手がけたことから、「台湾水道の父」と評されている。

経歴

1869年10月13日（明治2年9月9日） - 佐倉藩寺台村（現在の成田市寺台）で農家の二男、黒川 弥次郎（くろかわ やじろう）として出生。1876年 - 成田小学校（現・成田市立成田小学校）入学。1882年 - 千葉中学校（現・千葉県立千葉中学校・高等学校）入学。1886年 - 東京の旧制第一高等学校（現・東京大学）に入学。1888年 - 医師の浜野昇（のちに政治家）に養子入り。浜野 弥四郎と改名。1893年 - 帝国大学工科大学（現・東京大学大学院工学系研究科・工学部）に入学。イギリス（スコットランド）出身のお雇い技師ウィリアム・K・バートン（バルトンとも。以下バートン）に師事。1896年 - 帝国大学卒業、バートンとともに台湾へ赴任する。1919年 - 台湾から帰国。1932年12月30日 - 東京で死去。

台湾での業績

帝大の衛生工学特別講師だったバートンに師事し東京帝国大学工学部土木学科を卒業後の1896年（明治29年）、バートンが民政長官後藤新平の要請で台湾での衛生インフラ整備事業で顧問を務めることになり助手として同行した。台湾に赴任すると、台湾総督府民政部土木局の技師に従事。帝国大学で後輩だった堀見末子と同僚だった。台北と南部で衛生状況調査、台中で都市計画調査を行う傍ら、同時並行でイギリス統治下の上海、香港、シンガポールなどを視察し英国式の衛生行政を学んだ。そしてバートンと浜野は台湾で衛生問題を解決する方策は上下水道の整備にあると結論付けた。1899年（明治33年）、バートンは基隆水道貯水池（現・基隆市暖暖区の西勢水庫）設計中に風土病に倒れ、東京へ戻りつつも帰らぬ人となった。悲しみに暮れつつも浜野はバートンの遺志を継いで台湾に残り上下水道の整備を継続した。

23年に及ぶ駐在期間で基隆、台北、台中、彰化、嘉義、台南、屏東などの主要都市および士林、金包里（現・新北市金山区）、北投、斗六、大甲、花蓮港などの中小都市で水道事業に携わった。水源調査、取水場・浄水場・濾過装置・上下水道の整備計画をまとめあげただけでなく、バートンの教えに従い新しい理論、概念の学習を欠かさず毎年定期的に開催されていた全国上水協議会などで他の技師と交流もしていた。また、在台日本人の健康増進、精神鍛練などを目的に設立され、台湾で武徳殿などを運営していた「台湾体育協会」で理事も務めている。1902年に竣工した基隆水道は21世紀の今なお現役であり、当時の姿を残す八角井楼とポンプ室は市定歴史建築に登録されている。1908年に完成した台北水道は日本の東京や名古屋よりも早く供用された水源で、12万人分の水を供給し、台北市の水事情、衛生事情の改善に大きく寄与した。役目を終えた現在は台北市政府の市指定古蹟に登録され、「自来水博物館」として生まれ変わっている。1911年7月9日には士林、北投でも水道が完成、1912年には第28回帝国議会で総督府が要請していた総額263万円の台南水道の予算案が通過した。翌年に実地調査を開始し。予算が433万円に超過したり、第一次世界大戦の影響などで予定していた4年の工期が遅れたものの、7年以上の工期を経て1922年（大正11年）に10万人の供給能力をもつ水道インフラが完成している。台南水道は戦後に市内で大型の施設が稼働し主要な役割を譲ったものの、1982年まで稼働し続けた。こちらも2005年に国定古蹟となっている。

台南水道事業では上司として八田與一と出会い、八田は浜野から多くのことを学んだ。その後八田は同じ台南で嘉南大圳と烏山頭水庫の大事業を完成させている。

1919年、浜野は健康状態の悪化を理由に総督府の職務を辞し、帰国することを決意。また、恩師バートンの功績を世に留めるべくその銅像を建てようと募金に奔走し、台湾総督明石元二郎にも台北水道水源地内の用地確保を申請している。3月30日に無事バートン像の除幕式を開くことができた。4月に帰国のために台湾を去る際には官民合わせて150人以上が集い送別会を開いている。23年間の駐在中、16ヶ所の上下水道システム構築、16ヶ所の都市計画に携わったことで後世では「都市の医師」と評されるに至っている。没後の1937年時点で主要都市を含めて全土に111ヶ所の水道インフラが整備されている。日本へ戻った浜野は帝国大学学長だった佐野藤次郎の紹介で神戸市都市計画課課長として市内の上下水道整備に携わり、引き続きその手腕を国内で発揮した。

浜野の帰国後、八田は師である浜野の功績を称えようと台南水道の山上水源地（現・台南市山上区）に銅像を設置を呼びかけた。そして1921年に胸像が建立され、台北と台南で師弟の像が揃うことになった。しかし第二次世界大戦中の金属供出令により、バートン像だけでなく、浜野像も撤去されている。その後、水源地を訪問した台南の実業家で奇美実業創業者の許文龍は像の不在を嘆き、浜野の胸像を製作、水源地に寄贈している。



八田 與一

はった よいち

（1886年2月21日 – 1942年5月8日）

経歴

1886年（明治19年）に石川県河北郡花園村（現在は金沢市今町）に生まれる。石川県尋常中学、第四高等学校（四高）を経て、1910年（明治43年）に東京帝国大学工学部土木科を卒業後、台湾総督府内務局土木課の技手として就職した。日本統治時代の台湾では、初代民政長官であった後藤新平以来、マリアアなどの伝染病予防対策が重点的に採られ、八田も当初は衛生事業に従事し嘉義市・台南市・高雄市など、各都市の上下水道の整備を担当した。その後、発電・灌漑事業の部門に移った。1910年総督府土木部工務課で浜野弥四郎に仕えることになった。台南水道の事業で実地調査を共にするうちに八田は浜野から多くのことを学び、後述の嘉南大圳や烏山頭ダムにその経験が活かされることになった。1919年に浜野が離任で台湾を去ると、八田は台南水道に浜野の像を建立している。浜野像は戦時中の金属供出令で資材に流用されたが奇美実業創業者の許文龍により再制作、2005年に元の水源地に設置されている。

八田は28歳で、当時着工中であった桃園大圳の水利工事を一任されたがこれを成功させ、高い評価を受けた。当時の台湾は、まさに上述のインフラストラクチャー建設のまっただ中で、水利技術者には大いに腕の振るい甲斐のある舞台であった。31歳のときに故郷金沢の開業医で、後に石川県議なども務めた米村吉太郎の長女・外代樹（とよき）（当時16歳）と結婚した。

嘉南大圳

1918年（大正7年）、八田は台湾南部の嘉南平野の調査を行った。嘉義・台南両区域も同平野の区域に入るほど、嘉南平野は台湾の中では広い面積を持っていたが、灌漑設備が不十分であるためにこの地域にある15万ヘクタールほどある田畑は常に旱魃の危険にさらされていた。そこで八田は民政長官下村海南の一任の下、官田溪の水をせき止め、さらに隧道を建設して曾文溪から水を引き込んでダムを建設する計画を上司に提出し、さらに精査したうえで国会に提出され、認められた。事業は受益者が「官田溪埤圳組合（のち嘉南大圳組合）」を結成して施行し、半額を国費で賄うこととなった。このため八田は国家公務員の立場を進んで捨て、この組合付き技師となり、1920年（大正9年）から1930年（昭和5年）まで、完成に至るまで工事を指揮した。そして総工費5,400万円を要した工事は、満水面積1000ha、有効貯水量1億5,000万m3の大貯水池・烏山頭ダムとして完成し、また水路も嘉南平野一帯に16,000kmにわたって細かくはりめぐらされた。この水利設備全体が嘉南大圳（かなんたいしゅう）と呼ばれている。ダム建設に際して作業員の福利厚生を充実させるため宿舍・学校・病院なども建設した。爆発事故の翌年には関東大震災が起こり予算削減の為に作業員を解雇しなければならなかった。八田は、有能な者はすぐに再就職できるであろうと考え、有能な者から解雇する一方で再就職先の世話もした。

2000年代以降も烏山頭ダムは嘉南平野を潤しているが、その大きな役割を今は曾文溪ダム（中国語版）に譲っている。この曾文溪ダムは1973年に完成したダムで、建設の計画自体も八田によるものであった。また、八田の採った粘土・砂・礫を使用したセミ・ハイドロリックフィル工法（コンクリートをほとんど使用しない）という手法によりダム内に土砂が溜まりにくくなっており、近年これと同時期に作られたダムが機能不全に陥っていく中で、しっかりと稼働している。烏山頭ダムは公園として整備され、八田の銅像と墓が中にある。また、八田を顕彰する記念館も併設されている。

台湾総督府復帰〜殉職

1939年（昭和14年）、八田は台湾総督府に復帰し、勅任技師として台湾の産業計画の策定などに従事した。また対岸の福建省主席の陳儀の招聘を受け、開発について諮問を受けるなどしている。太平洋戦争中の1942年（昭和17年）5月、陸軍の命令によって3人の部下と共に客船大洋丸に乗船した八田は、フィリピンの綿作灌漑調査のため広島県宇品港で乗船、出港したがその途中、大洋丸が五島列島付近でアメリカ海軍の潜水艦グレナディアーの雷撃で撃沈され、八田も巻き込まれて死亡した。八田の遺体は対馬海流に乗って山口県萩市沖に漂着し、萩の漁師によって引き揚げられたと伝えられる。正四位勲三等叙位叙勲。日本敗戦後の1945年（昭和20年）9月1日、妻の外代樹も夫の八田の後を追うようにして烏山頭ダムの放水口に投身自殺を遂げた。



台湾台南市の烏山頭ダム傍にある八田與一像

烏山頭ダムに設置された銅像

烏山頭ダム傍にある八田の銅像はダム完成後の1931年（昭和6年）に作られたものである。住民の民意と周囲意見で出来上がったユニークな銅像は像設置を固辞していた八田本人の意向を汲み、一般的な威圧姿勢の立像を諦め工事中に見かけられた八田が困難に一人熟考し苦悩する様子を模し碑文や台座は無く地面に直接設置され同年7月8日八田立会いのもと除幕式が行われている。その後、国家総動員法に基づく金属類回収令により供出された際に行方不明となった。その後発見され、もとの場所に戻されたが、1949年から中華民国の蒋介石時代には大日本帝国の残した建築物や顕彰碑の破壊がなされた際に再び撤去され1981年（昭和56年）1月1日に、再びダムを見下ろす元の場所に設置された。2017年4月16日朝、銅像の首から上が切断されているのをダムの関係者が発見し、警察に通報した。犯人は中華統一促進党に所属し、以前新党の市議会議員として台北市議会議員を務めた李承龍（中国語版）で、翌4月17日に警察へ出頭した。同時期に台湾各所で頻発していた蒋介石像に対する悪戯への反発心が八田に向けられたとされている。台南市政府からは、八田の命日である5月8日までに銅像を修復する意向が示され、浜野像復活でも尽力した許文龍が奇美博物館で保管していたレプリカを用いて修復された。

ラフカディオ・ハーンと「開かれた精神」



島根県立大学短期大学部教授 小泉 凡

一般財団法人人間自然科学研究所が編集された『朝鮮半島と日本列島の使命』には、小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）が「神戸クロニクル」紙に書いた論説記事の幾篇かが抜粋されています。『怪談』の著者として知られる八雲は、実は人生の大半をジャーナリストとして過ごしました。具体的にはアメリカでの15年余りと日本の神戸時代がそれにあたります。神戸クロニクル社への勤務は、わずか1年未満でしたが、90篇近い論説記事を書き、その中には、日本のみならずロシア・中国・朝鮮半島の未来を展望した文章も少なからずみられます。また、八雲は1894年1月に熊本で行った「極東の将来」という講演の中で、将来的には西洋より東洋が大きな意味をもつ時代が来ること、そして「最も辛抱強い、最も経済的な、最も簡素な生活習慣をもつ民族が勝ち残る」と言っています。それは、「自然と最もよく共生でき、必要最小限の生活で満足できる」人々こそ生存最適者だという信念に基づいている、つまり、「シンプルライフ」と「共生」の維持が日本の将来において最も大切だと考えていたのです。「共生」の思想は21世紀を生きるわれわれ

にとって大きな意味をもつことは言うまでもありません。

ヨーロッパに生まれ育った八雲は、地球を3分の2周して日本にたどり着きました。それゆえ、多くの異文化体験をしています。子供のころにギリシャの多神教の世界やケルトのアニミズムの世界に魅了され、アメリカではラテンヨーロッパとアフリカ文化の融合によって開花したクレオール文化やネイティブ・アメリカンの文化を垣間見、さらに日本ではケルト世界に通じる神道や民間信仰に接し共感しました。そのようにして偏見の少ない多文化意識が形成されていたものと思われます。八雲のいう「共生」とは、異文化間の共生だけではなく、人間と自然との共生や、人間と異界との共生も視野に入れたものでした。人間世界だけで完結してしまうことは、人間の謙虚さや畏怖する心を忘れさせてしまう危険があると思ったからです。そして、多くの怪談を採集し、魂を吹き込んで英語に翻訳したのも、怪談つまり異界と人間が交錯する話には真理（truth）があると考えたからでした。約束・畏怖・秘密・好奇心・愛……など、怪談が発するメッセージには、100年後・200年後の人々もその普遍性に関心をもち続けるに違いないと予測し、そこから学ぶべきことも多くあると考えたのです。今、まさにそのような八雲の思いが再評価される時代が来ているように思われます。

八雲の生誕160年・来日120年にあたる2010年、松江では2つの記念事業が開催されました。ひとつは「ハーンの神在月一全国小泉八雲の会&ミュージアムの未来を考えるサミット」で、もうひとつはハーンの精神性を造形芸術で世界のアーティスト

周藤彌兵衛 翁

すとう やへい
(1650 年 - 1752 年)

八雲町の山麓から流れ出る意宇川は、江戸時代初期には急屈折と蛇行を繰り返す川でした。そのため、大雨の時はたびたび堤防が決壊し、地域全体が泥海化する水害が多発しました。その惨状を憂え、慶安三年(1650)から3年間、新たに直進する川筋に変える「川違(かわたが)え」と「切り通し」の工事に取り組んだのが、日吉村(現在の松江市八雲町日吉)の豪農周藤彌兵衛家初代家正でした。その祖父の遺志を継いだ3代彌兵衛良利は、宝永3年(1706)56歳の時から、延享4年(1747)97歳に至る実に42年もの年月をかけ、工事をやりとげました。巨額の私財を投じ、百歳近くまで孤軍奮闘の努力をした良利の人間像は、今に至るまで語り継がれています。さらに、明和3年(1766)に6代兵蔵の追加工事が行われ、その後、水害は激減し、旧河道の地内には広い田畑も生まれ、地域の繁栄と人々の幸せにつながりました。良利は宝暦2年(1752)102歳の天寿を全うしました。

概要

人間自然科学研究所は1994年の設立時より、郷土の偉人を顕彰する出版活動を中心とする「一村一志」運動を始めました。その第1弾として、水の偉人・周藤彌兵衛翁の小説・児童文学・漫画を出版しました。周藤彌兵衛翁は宝永3年(1706年)、56歳にして一念発起、私財を投じ、意宇川(日吉村・現松江市八雲町)をせき止めていた「剣山」をノミと槌だけで砕き始め、川の流れを変える工事に取りかかり、42年後、彌兵衛翁が97歳のときに完成、翁は102歳で亡くなりました。洪水が治まったことで村には多くの新しい農地が生まれました。現在でも川底にはノミの跡が認められます。周藤翁の生き方は地域だけではなく、長寿社会日本、そして人類の歴史の評価にたえるモデルといえます。

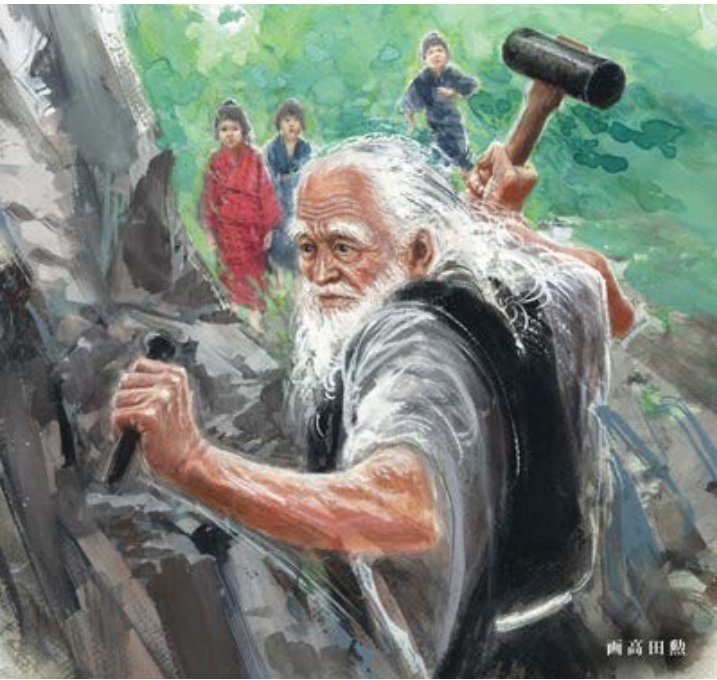
研究所ではその後、同じく水の偉人、清原太兵衛翁、大槻七兵衛翁の小説・児童文学・漫画の出版、朗読テープ制作、感想文募集、シンポジウム開催、周藤翁・清原翁の銅像製作、韓国語漫画出版などの事業を展開してきました。

2007年には、日吉親水公園一帯を、周藤翁の銅像を中心に、全国の水の偉人の名前と業績を刻んだ碑林を設置し、志の芽生える郷を造成する「大志の郷」構想を発表しました。

21世紀は「水の世紀」と言われています。水系感染症の心配のない安全な飲み水を得られない11億人の人々、地下水の過剰汲み上げによる農耕地の不毛化、水資源の過剰利用と汚染による生物多様性の低下、水資源の不足による地域紛争等々、人類の存続に関わる重要課題として「水の危機」が顕在化しています。

水は平和の源。「大志の郷」構想をベースに、日吉切通しから熊野大社に至る一帯を、世界の水と平和の偉人を顕彰する「世界の水と平和の聖地」とすることを提案します。

先人の思いを生かし、高い志と使命を受け継ぐ場、人としての生き方を考え、探し求める滞在型観光地とし、世界恒久平和のプラットフォーム構築の一翼を担うことをめざします。



2002年9月 日中国交正常化30周年記念
中国棗莊 台兒莊大戰記念館 訪問・献花・寄附・銅像制作



2014年8月1日 水の日
周藤彌兵衛翁大銅像(高さ2.7m、幅2.8m、奥行1.7m、重さ1.3t)
意匠:高田勲(島根県飯南町出身)/制作:劉成啓(中国山東省棗莊市)

1938年、甚大な被害が出た、島根、鳥取、広島、岡山出身者で編成された松江63連隊を含む日本軍と、中国の蒋介石・毛沢東の国共合作軍が戦い勝利宣言をした「台兒莊大戰」の地の中国山東省台兒莊棗莊市に、米国製銅を送り制作。



ハワイ出雲大社



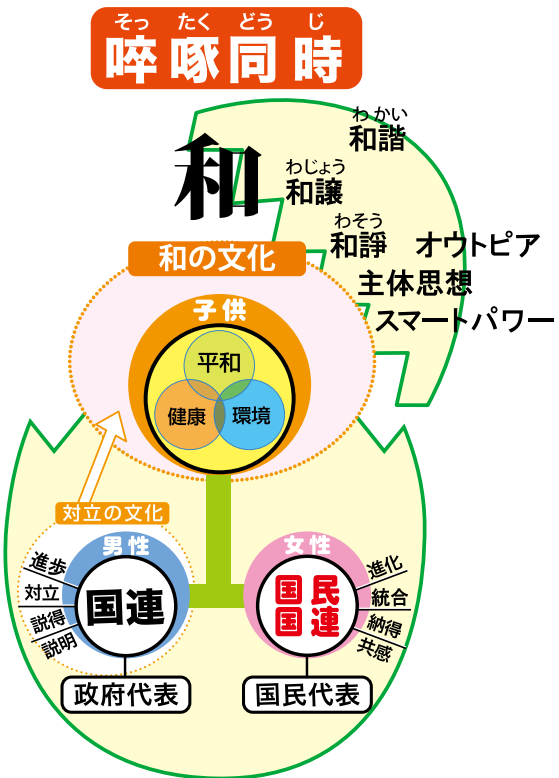
2017年6月6日 ハワイ・アリゾナ記念館訪問、献花、寄付



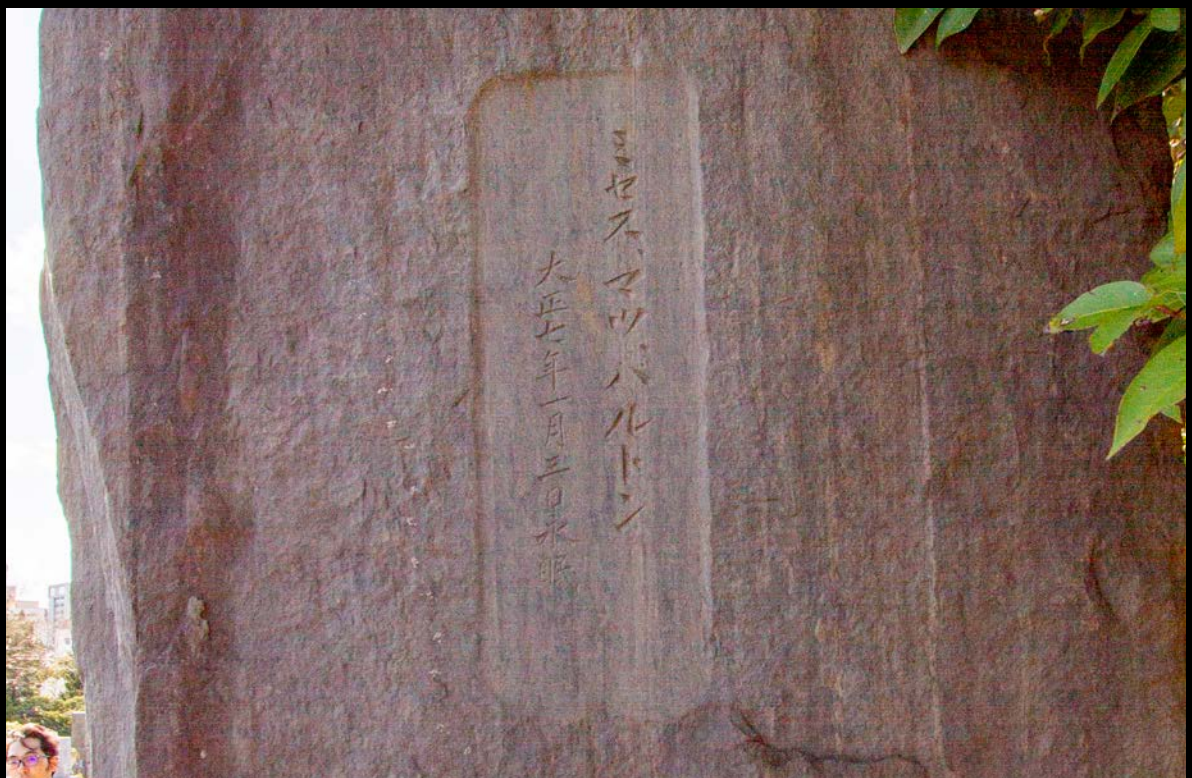
アルフレッド・K・ロドリゲス氏と名誉団長小松千恵子氏の握手の様子

が表現する美術展です。2つの事業に共通する趣旨は、八雲のもつ“Open Mind”つまり「開かれた精神」を現代社会や未来に生かすとするれば、どんな可能性があるかを模索しようというものです。小松社長様には趣旨にご賛同いただき、多大なご協賛を賜りました。

八雲の極東の将来に対する考え方には、小松社長がめざす「共生」「和譲」というキーワードと響き合う考え方があるように思われます。一国や一地域のための権益ではなく、世界全体を見渡した上で東アジアの未来を考えていくことは非常に大切なことだと思われるからです。



国民国連構想
2008年9月、北京で発表



人間自然科学研究所

<https://www.hns.gr.jp/>

〒 690-0046 島根県松江市乃木福富町 735-188
TEL: 050-3161-2490 FAX: 050-3161-3846

無断転載禁止

No reproduction or
republishing without written
permission.

ver.20200220 y.kobayashi